

おにくがいつぱい

「みんな、おにくやけたよ。」

とおばあちゃんのおおきなこえがしました。

「やったー。はやくたべにいこう。」

そういうと、おねえちゃんは、うみからとびだしてバーベキューをしているばしょへ、ものすごいスピードではしりだしました。

「まけてたまるか。はやくいっておいおいおにくをとらなくちゃ。」

とわたしもいそぎます。

すると、

「おねえちゃんまってよ。」

とうみのほうから、なっているようなこえがきこえました。

「あっ、わすれてた。こうきくんもおよいでいたんだ。つれにもどらなくちゃ。」

とおもって、うみのほうにいこうとすると、めのまえをおねえちゃんが、ビューンとたいふうにふきとばされたはっぱみたいにもどっていきました。

「チャンスだ。いまのうちに、おにくをたべるぞ。」

とわくわくしながらはしっていった、一ばんにもどることができました。

「いただきます。」

といって、たべはじめようとしたときです。こっちのほうにあるいてくるおねえちゃん、こうきくんがみえました。四ねんせいのおねえちゃんは、わたしより一つとしたの、いとこのこうきくんにあわせて、ゆっくりとあるいています。わたしは、なんだかいまたべたらいけないようなきがしました。わるいことをするようなきもちになったからです。だから、まっていることにしました。

「ただいま。」

といって、ふたりともかえってきました。

「おかえりなさい。まってたよ。」

という、おねえちゃんがにこっとわらって、

「ありがとう、たべようか。」

とこたえます。すると、おじいちゃんとおばあちゃんが、

「えらかね。」

といって、にっこりわらっていました。
おとうさんとおかあさんにもにっこりしていました。

三にんそろって、

「いただきます。」

といって、ぱくぱくたべはじめました。

くちのなかに、ジュワーツとおにくのあじがしてきます。

「おいしかね。」

とおばあちゃんにきかれたから、おにくがいっぱいはいったまま、

「うん、おいしいよ。」

とおへんじしたとき、おじいちゃんとおばあちゃんが、まだなんにもたべていないようだったから、

「なんでたべないの。」

ときいてみたら、

「あとでたべっけんよかとよ。ゆっくりたべんね。」
といいました。



「おにくがなくなるよ。」

とわたしがいうと、おばあちゃんがクーラーをあけて、

「しんぱいせんでもいっぱいあるとよ。」

といいました。クーラーのなかには、おにくが、いっぱいはいっていました。

「みんなが、おなかいっぱいで、げんきにあそべるように、たくさんかってくれたのかな。」

とおもったから、

「おばあちゃんやさしいね。」

といったら、

「なるみちゃんもやさしいね。」

といって、わらっていました。そのかおをみていたら、
とってもたのしくなりました。

またみんなでいきたいな。